

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品（製品）の名称	ワンタッチコート
製品番号	
供給者の会社名	株式会社ニチュウ
所在地	東京都江東区枝川2丁目13番1号
担当部署	
連絡先電話番号	03-6666-1444
FAX番号	03-6666-5792
緊急連絡電話番号	03-6666-1444
推奨用途及び使用上の制限	スプレー式舗装用乳剤

2. 危険有害性の要約

本製品は通常、常温で取り扱うものであるが、本製品に使用しているアスファルトは取り扱い時の温度によって危険有害性が大きく異なる。ここでは条件による危険有害性を明記する。

GHS分類

物理化学的危険性	エアゾール	区分1
	自然発火性液体	区分外
	自己発熱性化学品	区分外
健康有害性	急性毒性（経口）	区分外
	急性毒性（吸入：気体）	区分外
	眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	区分1
	生殖細胞変異原性	区分2
	発がん性	区分2
	生殖毒性	区分2
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分3（気道刺激性、麻酔作用）
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分1（呼吸器系）
環境有害性	水生環境有害性（急性）	区分3
	水生環境有害性（長期間）	区分3

絵表示



注意喚起語

危険有害性情報

危険

可燃性又は引火性の極めて高いエアゾール
高圧容器：熱すると破裂のおそれ
重篤な眼の損傷
遺伝性疾患のおそれの疑い
発がんのおそれの疑い
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
呼吸器への刺激のおそれ
眠気又はめまいのおそれ
長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器系の障害
長期継続的影響により水生生物に有害

注意書き

安全対策	<p>使用前に取扱説明書を入手すること。</p> <p>すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。</p> <p>熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。</p> <p>裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。</p> <p>使用後を含め、穴をあけたり燃したりしないこと。</p> <p>呼吸器保護具、保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。</p> <p>ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。</p> <p>取扱い後は手をよく洗うこと。</p> <p>この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。</p> <p>屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。</p> <p>環境への放出を避けること。</p>
応急措置	<p>吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。</p> <p>気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。</p> <p>ばく露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。</p> <p>眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。</p> <p>直ちに医師に連絡すること。</p>
保管	<p>容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。</p> <p>施錠して保管すること。</p>
廃棄	<p>日光から遮断し、50℃以上の温度にばく露しないこと。</p> <p>内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。</p>

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物	混合物	官報公示整理番号		CAS No.	濃度又は濃度範囲
		化審法	安衛法		
	ストレートアスファルト	(9)-1720	既存	8052-42-4	35～45%
	溶媒（炭化水素化合物、エステル類、アルコール類含有）	非公開	非公開	71-23-8	14～23%
	ノルマルプロパノール	(2)-207	既存	71-23-8	3～5%
	ジメチルエーテル	(2)-360	既存	115-10-6	35～45%

4. 応急措置

吸入した場合	<p>空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。</p> <p>気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。</p>
皮膚に付着した場合	<p>ばく露又はその懸念がある場合は、医師の診断、手当てを受けること。</p> <p>皮膚を速やかに、水と石鹸で洗浄すること。</p> <p>皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。</p>
眼に入った場合	<p>水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。</p> <p>直ちに医師に連絡すること。</p>
飲み込んだ場合	<p>口をすすぐこと。</p> <p>医師の診断、手当てを受けること。</p>

5. 火災時の措置

消火剤	<p>小火災：粉末消火剤、二酸化炭素、散水、耐アルコール性泡消火剤、乾燥砂。</p> <p>大火災：水噴霧、耐アルコール性泡消火剤。</p>
使ってはならない消火剤	棒状注水

特有の危険有害性

加熱により容器が爆発するおそれがある。
 破裂したボンベが飛翔するおそれがある。
 蒸気は前兆なしにめまいや窒息を引き起こすおそれがある。
 液化ガスからの蒸気は、初めは空気より重く、地表にそって広がる。
 ガスや液化ガスに接触すると、火傷、重傷及び／又は凍傷になるおそれがある。
 火災時に刺激性、腐食性及び／又は毒性のガスを発生するおそれがある。
 極めて燃え易い：熱、火花、火炎で容易に発火する。
 蒸気は空気と爆発性混合気を形成する。
 蒸気は着火源にまで達し、発火することがある。
 多くの蒸気は空気より重く、地面に沿って広がり、低いところや密閉部分にたまる。
 屋内、屋外又は下水溝で蒸気爆発の危険がある。
 下水溝に流れ込むと火災、爆発のおそれがある。
 多くのものは水より軽い。
 吸入や接触により皮膚や眼に刺激や炎症を起こすおそれがある。
 消火水が汚染を引き起こすおそれがある。
 空気と爆発性混合気を形成する。

特有の消火方法

損傷したボンベは専門家だけが取り扱う。
 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
 漏洩源や安全装置に直接水をかけてはいけない；凍るおそれがある。
 消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。
 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
 安全弁から音が発生したり、タンクが変色したときは直ちに避難する。
 火災に巻き込まれたタンクから常に離れる。
 引火点が極めて低い：消火の効果がないおそれがある場合は散水を行なう。
 大火災の場合、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。これが不可能な場合には、その場所から避難し、燃焼させておく。
 周辺及び漏洩状況から判断して消火すると危険が増すと考えられるときは火災の拡大延焼を防止するため周辺に噴霧散水しながら容器内のガスが無くなるまで燃焼させる。
 ガスの滞留しない場所で風上より消火し、漏洩防止処置を施す。
 漏洩が安全に停止されない限り消火しないこと。
 安全に対処できるならば着火源を除去すること。
 空気式呼吸器（SCBA）、眼や皮膚を保護する耐熱性の防護服を着用する。
 製造者により特に推奨された耐薬品用保護衣を着用する。

消火を行う者の保護

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

漏洩場所を換気する。
 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。
 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
 関係者以外は近づけない。
 風上に留まる。
 低地から離れる。
 立ち入る前に、密閉された場所を換気する。
 作業者は適切な保護具（8. ばく露防止及び保護措置の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

環境に対する注意事項

環境中に放出してはならない。
 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
 希釈水が汚染を引き起こすおそれがある。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

すべての発火源を取り除く（近傍の喫煙、火花や火災の禁止）
 漏洩物を取り扱うとき用いるすべての設備は接地し、工具は火花防止型を用いる。
 危険でなければ漏れを止める。
 可能ならば、漏洩している容器を回転させ、液体でなく気体が放出するようにする。
 容器を冷却して蒸発を抑え、発生した蒸気雲を分散させるため散水を行う。
 不活性材料（例えば、乾燥砂又は土等）で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策
安全取扱注意事項

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
 使用前に使用説明書を入手すること。
 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
 裸火又は高温の白熱体に噴霧しないこと。
 加圧容器は使用後穴をあけたり燃したりしないこと。
 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
 目や口に入ると刺激を受けることがあり、使用の際には十分気を付けること。
 内容物を故意に吸い込まないこと。
 加圧ガスを含有し、熱すると爆発のおそれがある。
 容器は丁寧に取り扱い、衝撃を与えたり、転倒させない。
 多量に吸入すると、窒息する危険性がある。
 漏洩すると、発火、爆発する危険性がある。
 皮膚、粘膜等に触れると、炎症を起こす。
 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
 火気厳禁。
 容器を接地すること。アースをとること。
 防爆型の電気機器、換気装置、照明機器等を使用すること。
 火花を発生させない工具を使用すること。
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
 空気中の濃度を暴露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。
 換気の良い場所で取り扱うこと。
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
 取扱い後は手をよく洗うこと。
 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
 環境への放出を避けること。
 『10. 安定性及び反応性』を参照。
 取扱い後はよく手を洗うこと。

接触回避
衛生対策

保管

安全な保管条件

スチール缶の場合、缶が錆びて破裂する原因になることがあり、湿気の多い場所には保管しないこと。
 長期間使用しないで置き忘れたりしないこと。
 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。禁煙。
 日光から遮断し、50℃を超える温度に暴露しないこと。
 保管場所には危険物を貯蔵し又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
 施錠して保管すること。
 容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。
 耐圧強度と気密性を有する容器を使用する。
 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

安全な容器包装材料

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度

化学物質名	管理濃度	許容濃度（ばく露限界値）	
		日本産業衛生学会 2017年版	ACGIH 2017年版
ストレートアスファルト	未設定	未設定	TWA0.5mg/m ³ [Asphalt(Bitumen) fume as benzene-soluble aerosol]

溶媒 (炭化水素化合物、エステル類、アルコール類含有)	未設定	未設定	未設定
ノルマルプロパノール	未設定	未設定	TWA 100 ppm
ジメチルエーテル	未設定	未設定	未設定

設備対策 防爆仕様の局所排気装置、密閉する設備又はプッシュプル型換気装置を設置する。
本製品を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
高熱取扱いで、工程でガス、蒸気、ヒューム、ミストが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。

保護具

呼吸用保護具

呼吸器保護具を着用すること。
送風マスク又は有機ガス用防毒マスクを着用すること。

手の保護具

保護手袋を着用すること。

眼の保護具

眼の保護具を着用すること。
安全眼鏡を着用すること。撥ね飛び又は噴霧によって眼及び顔面接触が起こりうる時は、包括的な化学スプラッシュゴーグル、及び顔面シールドを着用すること。

皮膚及び身体の保護具

保護衣、保護面を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

外観 (物理的状态、形状、色)	可燃性/引火性エアゾール、内容物：液体、黒色
臭い	溶剤臭
臭いの閾値	データなし
pH	データなし
融点・凝固点	-25℃
沸点、初留点及び沸騰範囲	50℃
引火点	23℃ (測定方法：不明)
蒸発速度	データなし
燃焼性 (固体、気体)	適用されない
燃焼又は爆発範囲の上限、下限	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度 (空気=1)	データなし
比重 (相対密度)	0.95 ～ 0.98 g/cm ³ (15℃)
溶解度	水に難溶
n-オクタノール/水分配係数	データなし
自然発火温度	200℃以上
分解温度	データなし
粘度 (粘性率)	データなし
動粘性率	46 mm ² /s

10. 安定性及び反応性

反応性	強酸化剤、酸化剤、強酸、強塩基と反応する。
化学的安定性	通常の保管および取扱いの条件においては安定である。
危険有害反応可能性	過剰な圧力又は熱を放出する危険有害な反応又は重合は起こらない。
避けるべき条件	火花、炎、その他発火源、裸火、日光、熱、衝撃、静電気火花。
混触危険物質	強酸化剤、酸化剤、強酸、強塩基。
危険有害な分解生成物	熱分解又は燃焼により、煙、一酸化炭素、二酸化炭素、窒素酸化物、ホルムアルデヒド、構造不明の有機物、硫化水素、亜硫酸ガス、硫酸酸化物を発生する。

11. 有害性情報

急性毒性

経口

混合物の急性毒性推定値が4707.77mg/kgのため、GHS:区分外に該当する。

経皮

データ不足のため分類できない。

吸入 (気体)

成分の急性毒性値は、ジメチルエーテル 164000ppmであり、混合物の急性毒性推定値が164000ppmのため、GHS:区分外に該当する。

吸入(蒸気)	データがなく分類できない。
吸入(ミスト)	データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	データ不足のため分類できない。
眼に対する重篤な損傷性または眼刺激性	ノルマルプロパノールが区分1、成分濃度の合計が濃度限界(3%)以上のため、GHS:区分1「重篤な眼の損傷」に該当する。
呼吸器感作性	データがなく分類できない。
皮膚感作性	データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性	ストレートアスファルトが区分2で濃度限界(1.0%)以上のため、GHS:区分2「遺伝性疾患のおそれの疑い」に該当する。
発がん性	ストレートアスファルトが区分2で濃度限界(1.0%)以上のため、GHS:区分2「発がんのおそれの疑い」に該当する。
生殖毒性	ノルマルプロパノールが区分2で濃度限界(3.0%)以上のため、GHS:区分2「生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い」に該当する。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ストレートアスファルト、ノルマルプロパノールが区分3(気道刺激性)で、成分濃度合計が濃度限界(20%)以上のため、GHS:区分3(気道刺激性)「呼吸器への刺激のおそれ」に該当する。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ジメチルエーテル、ノルマルプロパノール、溶媒が区分3(麻酔作用)で、成分濃度合計が濃度限界(20%)以上のため、GHS:区分3(麻酔作用)「眠気又はめまいのおそれ」に該当する。
吸引性呼吸器有害性	成分濃度が濃度限界(10.0%)以上の区分1の成分はストレートアスファルト(呼吸器系)であるため、GHS:区分1(呼吸器系)「長期にわたる又は反復ばく露による呼吸器系の障害」に該当する。
	溶媒 が区分1、区分1の成分濃度が10%以上であるが、本製品の40℃における動粘性係数が不明なため分類できないとした。

1 2. 環境影響情報

水生環境有害性(急性)	溶媒 が区分2で、区分2の成分濃度X10 の濃度合計が濃度限界(25%)以上のため、GHS:区分3「水生生物に有害」に該当する。(本混合物の成分49.5%については水生環境有害性が不明である。)
水生環境有害性(長期間)	溶媒 が区分2で、区分2の成分濃度X10 の濃度合計が濃度限界(25%)以上のため、GHS:区分3「長期継続的影響により水生生物に有害」に該当する。(本混合物の成分49.5%については水生環境有害性が不明である。)
オゾン層への有害性	モントリオール議定書の附属書に列記されたオゾン層破壊物質を含まないため分類されない。

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。 特別管理産業廃棄物のため、廃棄においては特に「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の特別管理産業廃棄物処理基準に従うこと。
汚染容器及び包装	スプレー缶を廃棄する場合は、自治体により廃棄方法が異なるので該当する自治体の規定に従うこと。 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

1 4. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報	
国連番号	1950
品名	AEROSOLS
クラス	2.1
容器等級	-
海洋汚染物質	非該当
有害液体物質	非該当
航空規制情報	
国連番号	1950
品名	Aerosols, flammable
クラス	2.1
容器等級	-
国内規制	
陸上規制情報	消防法の規定に従う。
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
国連番号	1950
品名	エアゾール
クラス	2.1
容器等級	-
海洋汚染物質	非該当
有害液体物質	非該当
航空規制情報	航空法の規定に従う。
国連番号	1950
品名	エアゾール（引火性のもの）
クラス	2.1
容器等級	-
特別の安全対策	<p>輸送の前に容器の破損、腐食、漏れ等のないことを確かめる。</p> <p>危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載すること。</p> <p>移動の際に、転倒、衝撃、摩擦、圧壊、漏洩などを生じないようにする。</p> <p>輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れを生じないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。</p> <p>運搬中の事故等により災害が発生した場合は、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。</p> <p>重量物を上積みしない。</p> <p>輸送時にイエローカードを携帯する。</p>
緊急時応急措置指針番号	126

15. 適用法令

労働安全衛生法	<p>名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9）（アスファルト、溶媒）</p> <p>名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9）（アスファルト、溶媒）</p> <p>第3種有機溶剤等（施行令別表第6の2・有機溶剤中毒予防規則第1条第1項第5号）（溶媒）</p> <p>危険物・引火性の物（施行令別表第1第4号）</p> <p>危険物・可燃性のガス（施行令別表第1第5号）</p>
廃棄物処理法	特別管理産業廃棄物（法第2条第5項、施行令第2条の4第1号）（廃油）（引火点70℃未満の消防法引火性液体）
消防法	第4類引火性液体、第二石油類非水溶性液体（法第2条第7項危険物別表第1）
船舶安全法	高圧ガス（危規則第3条危険物告示別表第1）
航空法	高圧ガス（施行規則第194条危険物告示別表第1）

16. その他の情報

連絡先	株式会社ニチュウ
-----	----------

参考文献

NITE GHS分類公表データ
EU CLP Regulation, AnnexVI
RTECS
ECHA Registered substances Database
Hazardous Substance Data Bank (HSDB)
国際化学物質安全性カード(ICSC)

注意

記載内容は、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、現時点における化学又は技術に関する全ての情報が検討されているわけではありませんので、いかなる保証をなすものではありません。なお、新しい知見及び試験等により改正される事があります。また、注意事項は、通常取り扱いを対象としたものです。全ての化学製品には、未知の有害性があり得るため、取扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定下さるようお願い申し上げます。